

日本性科学会 ニュース

第32巻第3号

平成25年（2013年）9月

発行人：大川 玲子 印刷所：鞆 絢文社

第8回日本性科学会近畿地区研修会

日 時：2014年2月16日（日）13：00～16：30（予定）

場 所：大阪市立大学医学部学舎4階講義室（予定）

テ ー マ：生殖補助医療とセクシュアリティ

教育講演：岡山大学大学院保健学研究科教授 中塚 幹也 先生

研修会担当理事：石河 修（大阪市立大学医学部附属病院長）

連 絡 先：大阪市立大学大学院医学研究科総合医学教育学内 森村 美奈 TEL 06-6645-3797

——関連学会主催の研修会・研究会——

第12回がん患者さんの性を支援する研修会

日 時：2013年12月1日（日）9：00～17：00

場 所：東京慈恵会医科大学 西新橋校舎1号館5階講堂 東京都西新橋3-25-8 TEL 03-3433-1111（代）

JR 新橋駅烏森口より徒歩約15分・タクシー 5分、都営地下鉄三田線御成門駅より徒歩5分

受 講 料：1万円

対 象：医療従事者（看護師、助産師、保健師、医師、臨床心理士、ソーシャルワーカーほか）

プログラム：総論① 女性の性反応と性機能障害 大 川 玲 子

総論② がんが性に与える影響 高 橋 都

各論① 乳がん 高 橋 都

各論② 婦人科がん 大 川 玲 子

各論③ がん薬物療法 渡 邊 知 映

各論④ ストマ造設 渡 邊 千登世

基本的セックスカウンセリング・技法：講義・ロールプレイ 金子 和子ほか

申し込み：がんと性研究会のホームページの申し込みフォームから必要事項を記入してお申し込みください。

<http://square.umin.ac.jp/oncosexo/>

GID（性同一性障害）学会第16回研究大会

日 時：2014年3月21日（金・祝日）、22日（土）

場 所：沖縄県市町村自治会館 那覇市旭町116-37 那覇バスターミナル・モノレール旭橋駅徒歩3分

テ ー マ：南の島から世界へ Partnership for Tomorrow

大 会 長：山本 和儀 山本クリニック院長

事 務 局：GID（性同一性障害）学会第16回研究大会事務局

〒901-2132 浦添市伊祖2-30-7 山本クリニック（担当 石原）

TEL 098-879-3303 FAX 098-879-3309

<http://gid16-okinawa.kenkyuukai.jp>

Vol. 32

№.
3

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

性別適合手術予定で摘出予定のあった精巣に腫瘍ができてしまった MTF

獨協医科大学越谷病院泌尿器科 小堀善友

たまには泌尿器科に來た症例を出してくれと依頼を受け、おそろおそろ性科学会本部に乗り込んで症例検討会に参加させていただいた。

患者は30歳、46XY、表現形は男性。性同一性障害(MTF)と診断され、元來当院初診日の2ヶ月後に性別適合手術(精巣摘除術、陰茎切断術、造陰術、外陰部形成術)を予定されていた。ホルモン療法(エストロゲン10mg、プロゲステロン125mg筋肉注射/週1回)を施行されており、見た目は女性であった。性別適合手術を予定されていたクリニックの診察にて右精巣に硬結を触れたため、当院紹介受診となった。

精巣癌は、10～30歳代男性に好発し、転移しやすいことで知られている。私が受けた泌尿器科の古い教えでは、「精巣癌を見つけたらその日の夕方に緊急で手術しろ!」というものがあるくらいである。それほどに転移しやすいことを表している。

当院受診時の所見として、右精巣に直径4cm大の硬い腫瘍を認めた。精巣癌の腫瘍マーカーは陰性であり、女性ホルモン療法によりホルモン値は去勢状態であった。CT、MRIでは転移を認めず、精巣内に脂肪組織を有する腫瘍を認めた。

もともと精巣は2ヶ月後に摘出予定(性別適合手術)であったが、癌の可能性が否定できないために早期の手術を推奨した。そこで、初診日に右精巣高位摘除術を施行した。右精巣内容はほとんど腫瘍に置き換わっていた。腫瘍断面には毛髪を認めた。病理組織は成熟奇形種(mature teratoma)であった。免疫染色にて、エストロゲンレセプター β (ER β)の発現を認めた。

女性の成熟奇形腫の原因として、エストロゲンとプロゲステロンの過剰分泌(例えば妊娠など)によるものが報告されている。この患者の場合、MTF治療のために行われた女性ホルモンの補充療法が成熟奇形腫発生の原因となった可能性が示唆された。精巣の胚細胞にはER β が発現しており、奇形種ではその発現が強いことが知られている。

また、「精巣癌」の患者であるにもかかわらず外見が「女性」であったため、外来の呼び出しや入院時の部屋を決定する際にトラブルが起こった。当院では、性同一性障害患者への対応が慣れておらず、更なる配慮が必要であると考えられた。この患者は術後には大きなトラブル無く、当院手術2ヶ月後に予定通り性別適合手術を施行された。

咲江レディースクリニック

丹 羽 咲 江



名古屋市で産婦人科クリニックを開業しております丹羽咲江です。

総合病院の産婦人科で10年間勤務した後、もっとじっくり患者さんの話を聞ける女性の駆け込み寺のようなクリニックを作りたいと思い、平成14年に小さなレディースクリニックを市街地の駅前に開院しました。それから10年、多くの女性が様々な理由で駆け込んできました。

開業当初はただ漠然と「なんでも気軽に相談できるクリニックにできれば」と考えていましたが、実際に診療をしてみると、大病院では診察するようなこともなかった予期しない妊娠や性感染症、DV、性交障害、性同一性障害の方など様々な患者さんたちが次から次へと受診されます。

今まで学んできたことは全く違うことを学び直さないといけないと感じていたところに日本性科学会の幹事である杉山正子先生から学会のお誘いをいただき、そこで学ぶことの大切さを改めて実感し入会を致しました。

また、患者さんからよく聞かれる言葉、「こんなはずではなかった。そんなこと知らなかった。知っていればこんなことにはならなかった」などなど、涙を流す数々の患者さんを診察し、悲しい思いをする女性を減らすためには正しい知識をつけて予防するしかないと感じました。しかし、どうやってその知識をより多くの人に知っていただくか…。

そんな折、「避妊教育ネットワーク」という日本家族計画協会クリニック所長の北村邦夫先生を中心とする、思春期の子ども達の性の問題について活発な活動をしている全国の医師たちのネットワークに参加をする機会を得、女性が正しい知識を身に付けることの大切さとそれを産婦人科医師として伝えていくことの大きな責任を学びました。それ以降、学校での性教育活動をさらに活発に行い、現在では年間約40校の学校で性教育を行っています。

学校での性教育活動や一般の方への講演活動を続けていくうちに、同じ志を持った仲間にも巡り合い、平成23年に「愛知・思春期研究会」を立ち上げ、年に2回のペースで講演会やシンポジウムを開催し、医師、看護師、助産師、保健所などの行政、警察、学校関係者、そしてNPOの方々など、若者の性の問題に取り組んでいる様々な職種の方々に参加していただいてネットワークを広げる活動も行っています。

また、性同一性障害の当事者と弁護士、教師達と共に立ち上げたセクシャルマイノリティ支援NPO: Proud Lifeでは、講演会を開催したり、レインボーホットラインというセクシャルマイノリティ専門の電話相談を愛知県の後援もいただき開始することができました。

これからもまだまだ学ぶべきことが沢山あると思います。女性や子ども達の笑顔のために様々なアプローチをしていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

【会員・役職】

咲江レディースクリニック院長、日本産婦人科学会会員、日本思春期学会会員、日本性感染症学会会員、愛知県産婦人科医会経営委員、WADN(世界エイズデーin名古屋)広報委員、愛知県「人間と性」教育研究協議会会員、ナール監事、NPO: PROUD LIFE 理事、愛知・思春期研究会共同代表、日本性科学会幹事、一般社団法人パートナー推進協会理事、国際医療ネットワーク評議員

第41回セックス・カウンセリング研修会報告

日本性科学会理事（研修担当） 金子 和子

第41回研修会（5月26日）は、これまで「性治療研修会」という名のもとに行われてきた研修会を、「セックス・カウンセリング研修会」と名をあらためた第1回目の研修会でした。性にかかわる方たちが性治療をしない場合でも参考になるように、との目的にそうようにしたのです。テーマは、様々な分野での取り組みが必要とされている、「性的虐待、性暴力を考える」でした。このためか、参加者は87名で、これは例年より多い数です（ちなみに、第40回は65名）。以下に出席者のアンケート結果の一部をご報告します。

Q. それぞれの講演は参考になりましたか？

（今回は、お答えいただいた方の職種及び会員か非会員かは伺っていません）

（N=35）数字は%

講演（講演順）	参考になった	やや	どちらとも いえない	あまり ならない	ならない	無回答	合計
性暴力の被害にあうということ	97.1	0	0	0	0	2.9	100.0
男性の性反応	51.4	31.4	11.4	2.9	0	2.9	100.0
子供の性虐待	91.4	8.6	0	0	0	0	100.0
性的虐待・性被害	80.0	8.6	0	0	2.9	8.6	100.1
症例検討	71.4	14.3	0	0	0	14.3	100.0

テーマに関する講演は、大変高い数字をいただきました。数字だけでなく、自由記述からも、様々な面で大変有意義であったと確信が持てました。この研修会の企画の段階では、私は個人的には、虐待を3つ並べるのは、どうかなという不安もあり、特に、体験者の発言を、研修会で聞くのが良いのか疑問もあったのですが、体験者の発言を聞くことで、対応の仕方や必要な事柄が実感的にわかり、それらを学ぶ意義や必要性が伝わり、動機も高まると改めて思いました。全部の講演で、もっと時間が欲しかったとの声が多かったのですが、これをきっかけに深めていってくだされば有り難いですし、その道筋の情報提供はできたのではないかと考えています。

定番の項目もそれぞれ一定の評価をいただいたと思います。「男性の性反応」はやむを得ない事情により、講演順が予定とは変更になりました。前の講演が性暴力にあった体験というインパクトの強いものだった影響を受けての数字と思われます。

今後希望する事柄としては以下のようなものがありました。「これからも当事者の声を」「発達障害者、精神遅滞者への性教育、性治療」「終末期のセクシュアリティ」「性風俗産業従事者あるいは、ボランティアの目で見えた障害者や健常者の性」「色々な症例」「治療者による治療の違い」等々。

今後とも皆様からのご意見、ご要望を活かして研修会を充実させたいと考えております。アンケートにご協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。